

令和7年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

資料4-4

(センターの名称: 地域包括支援センター ゆず)

地域包括 支援センター 自己評価	包括支援センターとして適切な運営が行えた。まちぢから協議会委員として定例会の参加、ボランティアセンター会議・ネットワーク会議へ出席を行い、地域と一定の協力体制を推進することが出来た。ネットワーク会議は、会議開催前に市社協・地域福祉課と事前打合せを行い、会議をスムーズに展開する事が出来た。地域活動充実事業として、昨年度に続き、地区社協主催による、街歩きを実施し、地域住民も交えた地域課題の抽出が行えた。チームオレンジ(笑ってたのしもうかい)は、チームメンバーの協力を得て、年間スケジュールを作成し、毎月定期的なイベントを開催し、当事者やその家族の参加を行いながら、着実に形として出来つつある。独自事業である、「ゆずクラブ」は運動を中心に年7回行い、初回と最終日の身体測定を計測し、参加者に数値表示を可視化し、運動への関心を持って貰うことが出来た。ケアマネサロンは1回開催。ACPIに関する研修を講師を招いて実施。脳血管当事者の会は、奇数月に開催を行い、話し合いの場や情報交換の場として定期利用者への参加が行えた。他、地域サロン勉強会の開催、近隣商業施設との薬剤師体験会イベントを協賛。今年度より、元町コミセンと共催で、福祉イベントを開催、商店街、障害事業所等へのワークショップ出店依頼を行い、今後も定期開催の話を進行中。
------------------------	---



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和8年5月8日 ・年間スケジュールを作成し、事業ごとの役割分担及びタスクの見える化をすることで、進捗状況を把握し、業務の効率化と平準化を図っていた。 ・高齢以外の分野と連携を強化するため、障がいのグループホームとそれぞれの役割や対応可能な範囲を整理し、意見交換を通じてケース支援につなげていた。 ・コミセンとの共催により健康福祉フェスタを開催し、近隣商店街や障がい事業所等と連携を図った。子どもから大人まで幅広い世代の参加があり、地域交流や福祉理解の促進につなげていた。 ・自治会館等の地域住民が集まる場所が無いという地域課題を把握し、地区社協や民生委員児童委員、自治会と街歩きを行い、地域の魅力を発掘することで、住民に対して外出をしたくなるイベントの開催やマップの作成に向けた準備を進めることができていた。
---------------------------------	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和7年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センターつむぎ)

地域包括 支援センター 自己評価	地域課題の一つである買物難民について、地域関係者と共に移動販売開始に向けた取組を行い、実際5か所の拠点で定着。また、災害時の避難場所や地域連携について不安を感じている医療機関や保育園などからの声を受け、地域ケア会議を開催し各関係団体と情報共有やネットワーク構築に繋げた。民生委員からは、単身者や高齢者世帯の場合、入院したのか介護保険サービスを利用しているのか確認方法に困っているとの相談があり、市内の居宅ケアマネと意見交換の場を設け、それぞれの役割や連携方法などについて意見交換を行った。認知症においては、民生委員や企業、薬局の他、中学生に対して初の認知症サポーター養成講座を開催。開催後、学生のアンケートからは日頃から自分達に何が出来るのか、認知症家族に対しての関わり方を振り返ってみてなど、認知症に対する理解が深まっただけでなく、今後を見据えた意見なども多く寄せられた。また地域団体の関係者とタイアップし、県の「認知症未病改善キャラバンPR事業」を活用。ワークショップの他、コグエボや毛細血管スコープの測定体験やフレイル体操のブースを設け、多くの地域住民に参加頂き認知症への理解・促進に努めた。
---------------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和8年5月13日 ・認知症サポーター養成講座について、初めて薬局や中学生を対象に開催し、今後の連携につながる顔の見える関係づくりや幅広い世代に対し、認知症への理解促進と知識の普及を図る機会を創出できていた。 ・令和7年7月の津波警報発令時の行動について振り返りや情報共有を行い、地域の要望を踏まえて地域ケア会議を開催し、津波避難ビルや津波避難地の違い等を確認するとともに地域の防災について今後の課題を整理することにより、意識の向上と横の連携強化につなげていた。 ・地域の介護支援専門員の民生委員とつながる機会が欲しいというニーズを踏まえて、交流会を開催し、顔の見える連携体制を構築したことで、実際に円滑な個別支援の対応につながった事例があった。
---	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
----------------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和7年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センターれんげ)

地域包括 支援センター 自己評価	7年度は介護予防事業に積極的な取り組みを行った。独自事業として介護予防教室「やっつろ体操」をスタートさせ、今年度は年4回開催し、地域住民の介護予防や健康意識を高めることにつながった。また「れんげクラブ」についても、前年度に続き地域内北部でも年2回開催。権利擁護出前講座では地域住民に馴染みのある「お仏壇のはせがわ」の協力のもと、安心して暮らすために必要な知識として、制度と権利に関する講座を開催。エンディングノートや遺言書など、今から準備しておくこと、伝えておかなければならないことなど、身近で具体的な話に、参加者から「わかりやすかった」と感想を頂いた。地域ケア会議は、ネットワーク会議と共催し、「地域の移動支援」について意見交換を行った。敬老福祉のつどいの参加者の送迎を地域の事業所の協力を得ることができた。また個別では、複合課題のある世帯について地域住民と支援関係者と情報共有し課題の整理を行った。認知症サポーター養成講座については、今年度も西浜小学校5年生児童に対して開催し、コグニサイズと組み合わせることで認知症に関する理解が深まった。また地域の企業である亀井工業でも開催し、認知症の正しい知識とともに、支えられる人ではなく、ともに地域で暮らしていく仲間としてとらえる「新しい認知症観」の普及啓発の取り組みを行った。
------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和8年5月13日 ・年度途中に管理責任者や主任介護支援専門員の変更があったが、十分な引継ぎ期間を設けるなど、業務に支障が生じない体制づくりがされていた。 ・移動支援をテーマに地域ケア会議を開催し、地域団体等と介護事業者が情報共有できる機会を作ることで、地域での移動支援の実現や、介護事業所によるサロンの会場提供につなげることができていた。 ・講座開催などの事業実施にあたり、民間企業と積極的に連携していた。 ・やっつろ体操の新規開催、れんげクラブの開催地域拡大など、介護予防を目的とした独自事業に積極的に取り組んでいた。 ・個人情報の取扱いについて、迅速な報告と対応に一部課題が生じていたため、所内でマニュアルの見直しを行うなど、改善をする必要がある。
---------------------------------	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和7年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 海岸地区地域包括支援センターあい)

地域包括 支援センター 自己評価	今年度は、チームオレンジによるサロン活動開始に向けた支援を行い、地区社協のサロンとして登録し補助金をもらいながら準備ができ、チームオレンジの皆さんがテーマを決めて2か月ごと「おれんじるーむ」を開催し、地域の掲示板や回覧板にて周知を行い定員を超える参加者が来てくれている。今後の方向性などについても地域福祉課や市社協とも連携を取りながら後方支援を継続していく必要性を共有した。その他、地区社協や民児協、まちづから協議会など地域の関係機関との連携を積極的に行い地域が抱える課題を把握し必要な関係機関とのネットワークを活かし、予防・解決に向けて積極的に取り組んだ。今年度は特に津波災害警戒区域指定を受けて防災について議題にする機会が多く、地域の活動に参加するとともに地域ケア会議でも取り上げ、介護事業所や薬局、訪問看護、障がいの施設など多機関と地域の実情について共有し、被災地の経験のある専門家の話を伺いながら今後の防災対策について検討する場を持ち、今後は情報受伝達や防災体制づくりに向けた地域連携など取り組むべき課題が見えてきたため、次年度へつなげていきたい。
------------------------	---



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和8年5月8日 ・サロン「おれんじるーむ」の立ち上げに際し、市社協や市地域福祉課とともにチームオレンジの後方支援を行い、5月にサロンがスタートし、チームオレンジとともに隔月でサロンを開催し、毎回異なるテーマでイベントを実施していた。 ・津波災害警戒区域指定による地域住民のニーズの高まりを受け、地域ケア会議は「防災」をテーマに開催した。グループワークでは地域住民や介護事業所のほか、地域の薬局や障がい者グループホーム職員など多機関の方々が参加することで、情報共有の方法など今後の課題の気づき等を得ることができていた。 ・郵便局とともに消費者被害に遭っている方の個別支援を行い、更に地域ケア会議のテーマとしても取り上げることで、新たな連携体制づくりを行うことができていた。
---------------------------------	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和7年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センター さくら)

地域包括 支援センター 自己評価	地域住民と協働し、地域資源の可視化につながる情報マップの作成に参画した。BCPの見直しを行い、7月の新型コロナウイルス感染対応を踏まえ、実態に即した内容へ改善し、業務継続体制の課題を明確化し職員間で共有した。認知症サポーター養成講座は小学生向けは感染により中止となったが、一般向けについてはグループワークを取り入れた新たな手法で開催し、理解促進につなげた。認知症当事者・家族のコミュニティカフェの企画・開催支援に関わり、地域づくりに寄与した。地域からの依頼による熱中症予防講話の実施や、地域ケア会議を通じて認知症見守りや制度併用、退院後支援等の課題を共有し、関係機関との連携強化を図った。また、後見支援センターや家計相談へ適切につなぎ、支援に結びつけた。消費者被害防止の動画作成に協力したが、活用には至らなかったため、次年度は活用を進め、啓発の強化につなげていきたい。
------------------------	---



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和8年5月20日 ・地域団体と協力して、地域資源をまとめた‘鶴嶺東地区つながるMAP’を作成し配布をすることで、地域の魅力や住民同士がつながる場を周知でき、地域理解の促進や交流の機会創出につながる取組ができていた。 ・認知症サポーター養成講座において、‘認知症世界の歩き方カード’を活用したグループワークを取り入れたことで、より実生活をイメージしながら対応方法を学ぶ機会を提供することができていた。 ・チームオレンジのメンバーと協働し、認知症当事者や家族の集いの場として、コミュニティカフェを開催し、継続的な交流の機会を創出できていた。 ・安否確認時の対応の流れや訪問時に持参する物品等をリスト化したマニュアルを作成し、迅速かつ適切に対応ができる体制づくりに努めていた。
---------------------------------	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和7年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センターみどり)

地域包括 支援センター 自己評価	令和7年度に予定した事業は全て開催することができた。まちぢから協議会、民児協 定例会や地区社協ネットワーク会議への参加等連携を図り、地域団体との協働の なかでサマースペースでの認知症サポーター養成講座の実施や鶴嶺西地区ふくし まつりの開催等後方支援を行うことが出来た。地域行事は、高齢者昼食会等多くの 行事に参加し、健康講座を行った。独自事業としてみどりカフェやフレイル防止のた めのポールウォーキングも継続実施した。認知症サポーター養成講座については地 区内専門学校生、団地自治会を対象に開催した。広報活動として「みどり通信」の定 期的な発行と配布により包括や独自事業・家族介護者教室の周知と案内に活用し た。また、地域ケア会議を地区ネットワーク会議内で開催したことや、高齢者の活動 の場としてみどりファームも継続実施し、認知症当事者やボランティアの参加等今後 のチームオレンジの土台作りを行った。特にチームオレンジの取り組みについて令 和7年度は推進を図った。具体的には鶴嶺西地区のステップアップ講座修了者で連 絡可能な方に連絡を取り、チームオレンジ連絡会を開催し、それぞれの現在の活動 内容や取り組みの情報交換や、今後地域としてどのようなことに取り組んでいくかにつ いて話し合いを行った。結果として金曜サロン内に家族会を立ち上げた。
---------------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和8年5月14日 ・チームオレンジ連絡会を初めて開催し、メンバーの交流を通じて情報交換やニー ズを把握でき、メンバーの主体的な取組による家族会の立ち上げにつなげることが できていた。 ・地区分析等で得られた担当圏域の現状や地域課題をボランティア交流会等の機 会に共有することで、地域の方の実情への理解が促進され、地域の方の主体性や 活動意欲を引き出すことができていた。 ・地域ケア会議で複合課題のある事例をもとにして、学校やこども家庭センター等の 役割について地域理解を深め、連携体制の構築につながっていた。 ・職員退職等に伴う変更届の遅延があったが、現場での引継ぎは十分なされており 欠員も生じていなかった。遅延が生じることのない体制を構築する必要がある。
---	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果につ
いて、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
----------------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和7年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センター すみれ)

地域包括 支援センター 自己評価	認知症対策として、夏休みの小学生対象と11月中島中学校2年生対象に認知症サポーター養成講座を行った。オレンジ月間には湘南認知症月間として、湘南地区の介護サービス事業者にオレンジの登り旗を玄関先に掲げてもらい、気軽に相談できる体制を作った。11月3日には湘南オレンジチームで湘南オレンジdayのイベント「私を探して」をしろやま公園で行い、オレンジチームが主体的に取り組めるよう支援をした。高齢者の多様な生きがいがいづくりの支援として多機関と協同して浜見平みんなの映画会(3回/年)男の料理教室(4回/年)を開催した。地域ケア会議は7回行い、個別課題では、認知症の見守りやヤングケアラー課題を取り上げた。権利擁護支援として成年後見制度とエンディングノートの書き方の講座を12月に開催した。家族介護教室では2月に21名の参加者で「タッチケア講座」を講義と実技を交えて行った。3月は地域の支援者と介護支援専門員との顔の見える関係作りとして、民生委員24名介護支援専門員17名が集まり、それぞれの仕事の紹介、グループワークで互いに聞いてみたい事などを話し合う機会を作り、ネットワーク構築の一環とした。
------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和8年5月12日 ・湘南認知症月間として、介護サービス事業所と協力し、認知症の相談ができる体制づくりをすることにより、認知症の方を地域で支える機運醸成につなげていた。 ・チームオレンジメンバーに対し、認知症の方への対応方法を専門講師から学ぶ機会をもうけたことで、オレンジdayのイベントをメンバーが主体的に運営することができていた。 ・地域ケア会議で、ヤングケアラー等の複合課題を抱える事例の検討を行い、児童分野の新たな関係機関との顔の見える関係づくりをし、多機関による支援体制を構築していた。 ・地域の介護事業所に呼びかけ、災害伝言ダイヤルを活用した合同訓練を行うことで、災害時の情報集約の課題の共有と検討ができていた。
---------------------------------	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和7年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センターくるみ)

地域包括 支援センター 自己評価	重点取り組みとして、既存の体操教室(赤とんぼクラブ)を別会場で年3回追加実施したことで、より多くの方に参加いただくことができた。地域住民の介護予防の意識の高さを認識し、次年度は更に増回予定としている。 民児協定例会への出席は可能な範囲で行い、情報提供や情報共有等行うことで、改選後の新しい方とも顔の見える関係づくりの構築に繋がっている。 ケアマネジャーとの連携については、地域の社会資源の一つであるサロンへの同行やネットワーク会議へ出席頂き、ボランティアセンター、自治会、民生委員等それぞれと意見交換を行うことで連携強化に努めた。 また、地域のお寺の住職へアプローチを行い、連携体制を構築した。お寺を新たな社会資源として活用できるようになり、地域行事、会議や介護予防に関する行事等の開催場所として利用が可能となっている。 茅2項目にある、人材育成計画について、専門職については、法人人事考課制度における年度の目標や具体策を立て、人材育成に取り組んでいる。
---------------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和8年5月14日 ・参加者の定員オーバーが課題となっていた赤とんぼクラブについて、「出張赤とんぼクラブ」として別の会場でも開催することにより、地域住民のニーズに対応する取組を実施していた。 ・地域の介護事業所と連携して認知症カフェを開催することで、一部は事業所独自の開催へと移行するなど、地域の社会資源の開発につなげることができていた。 ・お寺と連携することにより、住民の身近な場であるお寺をイベントや介護予防の場として活用できるなど、新たな社会資源として活用できるよう取り組んでいた。 ・介護支援専門員を対象にサロン見学会等を主催し、地域の社会資源を知り、顔の見える関係づくりをすることで、連携や活用ができる体制づくりを行っていた。
---	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
----------------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和7年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センターあかね)

地域包括 支援センター 自己評価	・認知症サポーター養成講座ステップアップ講座修了者の意見交換会を実施し、チームオレンジや認知症カフェの活動などの情報交換を行った。地区内のステップアップ講座の修了者は増えており、地区で認知症の本人や家族を支えていく下地作りを行ってきた。 ・民生委員を中心に行う相談会や認知症カフェ、地区社協等が開催するサロン活動には、職員が出向き、介護予防の啓発や介護保険制度の説明、地域包括支援センターの紹介などを行ってきた。 ・地域ケア会議では、民生委員と介護支援専門員の意見交換を行った。それぞれの役割を理解し、今後の連携を図りやすくしていくことに努めた。その後民生委員の改選があったので、民生委員と関係機関の橋渡しを行えるよう、日頃からの関係作りを今後も行っていく。 ・ネットワーク会議の課題として、移動の問題による買物の困難さが上がっている。令和7年度中は継続的な課題として上がっていたが、具体的な取り組みに結びつくことはなかった。今後具体的な取り組みが見出していけるかが、この先の課題のひとつである。
---------------------------------	---



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和8年5月12日 ・前年度に引き続き認知症カフェの支援に取り組むとともに、ステップアップ講座修了者向けの意見交換会を開催し、相談先のない孤立高齢者の増加や認知症に対する偏見などの課題、センターや民生委員の関わりの重要性などを共有し、多くの参加者のもとで有意義な意見交換ができていた。 ・地域ケア会議では、普段接点の少なかった民生委員と介護支援専門員とが互いに意見交換できる機会を設け、顔の見える関係づくりに資する取組をしていた。 ・前年度の事例を踏まえて、苦情や意見に関する記録についての見直しを行い、適切に改善が図られていた。
---	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
----------------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和7年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センター 青空)

地域包括 支援センター 自己評価	令和7年度はセンター職員の異動や退職がなかったことで、例年実施してきた事業について見直しを図った。具体的には消費者被害防止を目的とした「だまされない新聞」や、センターの周知目的である「まちがいさがし」の作成にAIを導入し効率化を図った。また、チームオレンジ主催の認知症カフェ「ふらっと茶屋」の運営資金確保の協力や、活動場所・開催回数増に向けた協議を開始する等の内容の充実を図った。 重層的支援体制整備事業の趣旨を踏まえ、地区社協や地区ボランティアセンター等の地域団体や、茅ヶ崎市地域福祉課及び茅ヶ崎市社会福祉協議会との協働を通して、高齢者に限らない対象者への支援についてもネットワーク構築やアウトリーチを実践した。 居宅介護支援事業者の介護支援専門員に対して、自然災害時におけるケアマネジメントに関する講義や、カスタマーハラスメント対策への研修企画を立案する等、近年求められている研修ニーズについて茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会や他包括との協働により積極的に取り組んだ。
------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和8年5月20日 ・包括の周知や消費者被害防止啓発活動において、地域住民に伝わりやすいキャッチフレーズや内容を工夫することで、相談窓口としての理解促進と、啓発内容への意識向上につなげていた。 ・認知症カフェ「ふらっと茶屋」やまちぢから協議会子ども部会主催のフリースペースにおいて、認知症に関する書籍や絵本を揃えた青空図書館を設置することで、幅広い世代が認知症について身近に触れ、理解を深めることができる機会を創出していた。 ・地域ケア会議において、地域で見守りが必要な高齢者支援について、動画を用いて関わり方を学習することで支援者同士が問題意識を共有することができていた。
---------------------------------	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和7年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センターさざなみ)

地域包括 支援センター 自己評価	◎今年度の重点的な取組みについて①暮らしやすい地域づくりの推進として、さざなみカフェとパーキンソン病患者と家族の茶話会を年間通じて定期的を開催した。参加者は高齢者と家族だけではなく、様々な専門職(保健所、訪問歯科、訪問看護、栄養士、マッサージ師、司法書士等)にも参加いただき、多職種連携にもつながった。②介護予防・権利擁護の推進として、週1回さざなみ体操を昨年に引き続き実施、サロン等での周知活動もあり、参加および毎週継続する人が増加した。こちらについても様々な団体や事業所の方に講師になっていただくことで連携やネットワークの構築に繋がった。③関係機関との連携推進として、今年度初めて夏休み中の小学生向け認知症サポーター講座を小和田公民館・地区社会福祉協議会と共催で実施することができた。 ◎地域ケア会議では、昨年に引き続き、「買物」をテーマにした。今回は、地域の高齢者の方にも参加していただき、高齢者の思いや現状の実態を把握する機会ができた。商店街やコンビニの方にも参加いただき、福祉関係以外の地域関係団体の方に地域の高齢者の課題について知っていただく機会にもなった。
---------------------------------	---



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和8年5月8日 ・小和田公民館、地区社会福祉協議会と連携し、講座の開催や高齢者等の活動の場の創出に積極的に取り組んでいた。 ・認知症予防、介護予防、地域のつながりづくりのために、さざなみ@コミカフェやさざなみ体操などを継続して開催し、高齢者同士のつながりや閉じこもり予防などの実績につなげていた。 ・メンタルヘルスについて、希望者へのカウンセリングやメンタルチェックは実施されていたが、全ての職員には実施されていなかった。 ・地域ケア会議では継続して「買物」をテーマに開催し、参加者を拡大することで、地域住民や関係機関など、地域全体で課題を共有することができていた。
---	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
----------------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和7年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

（センターの名称：地域包括支援センター あさひ ）

地域包括 支援センター 自己評価	・人材育成研修について、R7.4月より新しい職員が入職し、積極的に人材育成の研修に参加した。 ・退職者が2名いて引継ぎ等切れ目ない業務を実施した。 ・新人に対するマニュアルも活用して業務をおこなった。 ・1名職員が不足している。募集もかけている。 ・新しい職員が2名入職したことにより連携がはかれている。朝・夕のミーティングも継続し、フィードバックをおこなっている。 ・委託先については、公正・中立の立場で特定の事業所に偏らないよう記録をつけている。 ・災害時等緊急対応のマニュアルを作成、1年に1回見直しをしている。 ・地域ケア会議で移動支援について話し合い、この地域の問題点を共有でき、日程が合えば、お手伝い出来るという事業所もあった。顔の見える関係づくりも出来た。 ・あさひカフェ（認知症カフェ）も定期的の開催できた。利用する方やサポーターのつながりも出来た。今後も新たな居場所を作り、地域の集まる場所を広げていく。
------------------------	---



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和8年5月14日 ・移動支援をテーマに地域ケア会議を開催し、地域団体等と介護事業者が情報共有できる機会を作ることができていた。 ・あさひカフェの開催について、利用者やサポーターの提案を取り入れて、プログラム等の見直しを行い、外部講師を招くなどの取組を実施していた。 ・職員の退職による引継ぎが一部不十分だったことが、利用者からの苦情に繋がっていた。今後、職員の異動や退職が生じた場合は、確実な引継ぎができるよう、体制を整える必要がある。 ・近隣のセンターと連携し、地域の病院、薬局などの社会資源と連携してケアマネ座談会を開催するなど、介護支援専門員への支援に積極的に取り組んでいた。
---------------------------------	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和7年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センター わかば)

地域包括 支援センター 自己評価	・令和6年度に引き続き、包括あかねと合同で障がいと高齢との連携をテーマとしたケアマネジャー向け勉強会を開催できました。 ・チームオレンジ活動は、地区社協のサロンとして登録でき、活動の主体を包括からチームオレンジメンバーへ移行、当事者へのアプローチは包括の役割として行っています。地域特性を生かした屋外イベントや調理、会食等の企画の他、家族交流会は、薬剤師の協力も得て、介護相談や介護者の悩みを共有する場を持ち、参加者の好評を得ました。 ・地域ケア会議は、個別課題解決機能として、8050問題と虐待が絡むケースの意見交換ができました。ネットワーク構築、地域課題発見、地域づくり・資源開発機能としては、自治会からの要望で「ひとりでも安心して暮らせる街を考える」というテーマで1回、移動支援をテーマに2回開催しました。移動支援については、生活支援体制整備事業と連動して取り組み、地区社協サロンでの移動支援が実現しました。 ・「わかば通信」を2回発行し、地域包括支援センターの機能、予防事業、チームオレンジの周知、消費者被害防止の情報提供としても活用しました。
---------------------------------	---



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和8年5月20日 ・移動支援において、地域ケア会議の開催やサロンでの移動支援トライアル実施等を通じて、地域支え合い推進員とともに地域課題の解決に向けた取組を具体的に進め、まちぢから協議会と介護サービス事業所との協定締結を支援したことで、移動支援のスタートという成果につながっていた。 ・認知症地域支援推進員を2名体制とし、センターの人員体制に変動があった場合も地域の方々との協働を継続できる仕組みを整え、チームオレンジメンバーとの協働が円滑に進むような体制づくりに努めていた。 ・年2回、様々な情報を掲載したわかば通信を発行し、地域の回覧板等とともに配布することで、チームオレンジの活動報告、権利擁護に関する周知、センターへの相談がしやすい環境づくりなどの推進を行っていた。
---	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
----------------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。